

北区地域包括ケアみらい図 中間報告版

～みんなでつくる高齢者が安心して

暮らし続けられる 2025 年の北区の未来～



はじめに

『北区地域包括ケアみらい図』（令和 2 年 3 月発行）は、北区に暮らす高齢者が、住み慣れた地域で最期まで自分らしい生活を送ることができるように、地域ぐるみで応援する「地域包括ケア」の取組みを通じて、団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年にめざす理想の暮らしやまちの姿を描いたものです。

誰もがいつかは年をとり高齢期を迎えます。高齢者が安心して暮らし続けられる北区をめざし、“自分ごと”として無理なく楽しくできることから取り組みましょう。

北区の特徴 ～ 区民の約 3 割が 65 歳以上、ひとり暮らしが多い ～

＜高齢化率＞

29.0%

（市内第 3 位）

区民の約 3 人に 1 人が
65 歳以上

（出典：推計人口 2022.10）

＜ひとり暮らしの高齢者数＞

9,965 人

（市内第 1 位）

65 歳以上の区民の約 5 人
に 1 人がひとり暮らし

（出典：市資料 2022.10）

＜自宅で暮らす認知症の人の割合＞

57.4%

（市内第 2 位）

認知症の人の約 2 人に
1 人が自宅暮らし

（出典：市資料 2022.4）

『みらい図』作成後の社会の変化

『みらい図』作成後、新型コロナの感染拡大などに伴い、以下のような変化がありました。

- 新型コロナの感染拡大により、長期間にわたり、地域活動・健康づくりの場などの休止・縮小がありました。
- 新型コロナによる高齢者の外出自粛が長期化し、「フレイル」※¹の進行が危惧されています。
- デジタルの重要性が高まり、高齢者のデジタルデバインド※²が社会課題となっています。

※¹フレイル：加齢によって体や心の動き、社会的なつながりが弱くなった状態

※²デジタルデバインド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差

2025 年の高齢者の理想の暮らしと北区の取組み

『みらい図』で描いた、2025 年に向けてみんなで一緒に育てていきたい北区の高齢者の理想の暮らしの姿と、これまでの北区の取組みをまとめました。日常生活の中の何気ない一場面から、理想とする未来のまちや暮らしの姿を感じ取ってください。

【2025 年！こうなったらいいな 未来の北区のまちや暮らしの姿】

希望する生き方を 自ら選び実現できるまち
～年をとっても安心して暮らし続けられ、高齢者を選ばれるまち～

健康つながりまちづくり ワークショップの開催

学区ごとに、住民や職員が一緒になって、高齢者の暮らしの課題や今後の取組みアイデアを検討しています。



健康つながりまちづくりワークショップ

地域支えあい事業

地域の元気な高齢者を中心としたボランティアが、ゴミ出しや電球交換などの日常のちょっとした困りごとに対する生活支援を行います。実施学区、拡大中です。



ボランティアによる電球交換

高齢者のデジタル利活用の推進

名古屋大学情報学研究科と連携し、デジタル相談会の開催、デジタル支援ボランティアの育成等に取り組んでいます。



デジタル支援ボランティア勉強会



スマートスピーカー勉強会

※AI：Artificial Intelligence の略。人間の知的ふるまいの一部をソフトウェアで人工的に再現したもの

近所の銭湯で、高齢者が若者に
背中を流してもらっています

忘れがちな
ゴミ出し情報を
AI※が教えています

近所のサロンで
気軽に“よろず相談”
しています

毎朝公園に老若男女が集まり
KITA JAZZ!体操で交流しています

ご近所さんが集まって
楽しく夜御飯を食べています

IoT※技術に見守られて、
認知症の高齢者が
散歩を楽しんでいます

「これからに備える」
講演会の開催



北区認知症講演会

地域の集いの場・サロンなど



公園でのラジオ体操



集合住宅での健康・交流イベント



認知症カフェ



高齢者サロン

地域の空き家を活用して、
身近な場所でサロンが行われています

認知症の高齢者が一人でも
買い物を楽しんでいます

住み慣れた我が家で
医療や介護のサービス
を受けています

高齢者が安心して
自由に移動しています

地域包括ケアに関する出張講座など



「生老病死」絵本朗読会



商業施設でのフレイル予防イベント

北区認知症 フレンドリーコミュニティ

認知症のある人と一緒に、
誰にとっても暮らしやすい
まちづくりを進めています。



認知症フレンドリーコミュニティ
宣言への署名



サポートレジの導入



北区認知症本人のつどい

※IoT：Internet of Things の略。ものがインターネット経由で通信すること

実現のための主な取組み

2025 年までに重点的に取り組むこと

「北区まるっとすまいる大作戦」として、『みらい図』を実現するために様々な取組みを進めていきます。

1 最期まで安心して暮らせるまち	「できるだけ元気で暮らす」ための取組み	○「健康づくり・介護予防」のための身近な場づくり ・徒歩で気軽に行くことができる、自分にあった場を選べる ・学べる、食べたり飲んだりできる、交流できる ・多世代が集まることできる ・お出かけしやすいまち
	「これからに備える」ための取組み	○今後に備えた知識を誰もが学べる機会づくり ・介護保険やかかりつけ医について ・ACP や認知症について ・高齢期に備えた住まいのバリアフリーについて ・「おひとりさま」になっても不安がない
	「安心して医療・介護を受けられる」ための取組み	○医療や介護の機関とのつながりづくり ・在宅医療、在宅介護について知る ・要介護になる前から介護の仕組みを理解する ・かかりつけ医、いきいき相談室とのつながりをつくる
2 安心して暮らせるまち 認知症の人が	「認知症にやさしいまち」の取組み	○認知症フレンドリーコミュニティづくり ・行政、企業、住民がみんなで考えて取り組むまちづくり
	「社会参加できるまちづくり」の取組み	○みんながお互いに理解して参加できる地域づくり ・認知症であっても、地域の一員として活躍できる
	「認知症に備える」ための取組み	○みんなが自分ごととして捉えて備える ・認知症予防でリスクを減らす ・認知症になったときのための知識を学ぶ ・認知症になっても自立した生活を送れる
3 いきいきと暮らせるまち 持ちつ持たれつ、	「地域でのボランティア活動の推進」のための取組み	○高齢者が活躍できる、役割を持てる地域づくり ○ちょっとした活動が気軽にできる場づくり、人づくり ・あなたの声に気づける先一覧の作成と活用（※） ・必要な人に必要な情報が伝わる福祉情報の発信（※） ・いろいろな人が地域にいることを知る機会の提供（※） ・声掛けなど、何気ない見守りのできる人づくり（※） ・ちょっとした生活の困りごとを一緒に解決する仕組みづくり（※） ・スキルを活かしたボランティアの活躍の場の提供 ・認知症サポーターやボランティアの養成・活動の場づくり ・企業や大学などと連携した課題解決の仕組みづくり
	「ボランティア人材の発掘・育成、参加促進」のための取組み	
	「暮らしやすくする」ための取組み	

（※）の取組みは、第4次北区地域福祉活動計画の中で進めていきます。

【2023 年以降、特に重点的に進める取組み】

- ▶ 高齢者が身近な場所で集まれる多様な集いの場の再開・スタートアップ支援
- ▶ 認知症の人が「社会参加・働く」場・機会づくり
- ▶ 多様な地域資源（関係機関・企業・大学・地域活動団体等）との連携強化